国際シンポジウム

グローバル化時代におけるマネジメント人材の育成とMBA教育プログラムの開発

―青山学院大学主催―

課題は起業や新産業分野創出の核に

文科省・小松審議官ら講演

高度マネジメント人材の育成

青山学院大学（伊藤定良学長）は、文部科学省平成二十一年度「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」事業の一環として、国際シンポジウム「グローバル化時代におけるマネジメント人材の育成とMBA教育プログラムの開発」を三月五日、東京・渋谷の青山学院大学で開催。アジアの経営系大学の学長や東芝など国際企業の役員を招いて、講演やパネル討論を行った。南山大学、関西学院大学、ABEST21（経営専門職大学院の認証評価機関）との共催。このうち三つの講演の概要を紹介する。

基調講演で文部科学省大臣官房審議官の小松親次郎氏が「我が国の高等教育における高度マネジメント人材育成の施策」との演題で次のように講演した。

◇

日本の専門職大学院創設の背景について、新たな課題解決や国際的なルールづくり・合意形成に参画できる人材の育成や、EU域内等で高等教育の質保証の共通枠組み化等が急ピッチで進みつつあることなどから、日本でも専門職大学院が創設されることになった。

現在、専門職大学院の質の向上のために分野ごとに認証評価機関が活動しているが、今後の検討課題は、共通到達目標や関係規定の改正、効率的な運用などである。

二〇一〇年度の専門職大学院ビジネス（MBA）・MOTの数は三十二。二〇〇九年度の定員充足率は〇・九三倍。入学者は社会人が七三％。在学者の年齢構成を見ると平分が三十代である。在学者に占める外国人学生の割合は一割程度で、外国人学生の大半はアジアからの留学生である。

修了後の進路状況を見ると、もともと有職社会人が多いため、元の職場に戻るケースが多い。ただ、職場復帰しても優遇された事例は少ない。また学部新卒者や留学生の就職が課題である。

今後のマネジメント人材育成においては、修了生の質の保証、大学と産業界等のパートナーシップの構築、国際的な活動の展開が必要である。次なる課題は起業や新たな産業分野の創出の核となること、地域企業の経営リーダーの輩出である。

◇

特別講演「グローバル時代における東芝のマネジメント人材の育成」と題して講演した株式会社東芝取締役執行役専務の谷川和生氏は、東芝のグローバル人材育成プログラムを紹介した。

◇

東芝では職位ごとにプログラムが設置されており、「オーバーシーズ・マネジメント・コース」は、ミドルマネジメントより若干上を対象に、東芝バリューの理解および日本理解のために作られたもので、日本訪問ツアーも組み込まれた楽しいものになっている。

「グローバル・マーケティング・リーダーズ・プログラム」は、インシアード（ビジネススクール）のキム教授の著作『ブルーオーシャンストラテジー』に基づくコースで、特徴はマーケティングが主体となっているが、併せてフィールドスタディーが組み込まれていることである。

「プロジェクト・マネジメント・プログラム」は、発電所や水処理システムを作るなどのプロジェクトを進めるために準備しているものである。

このほか、原子力事業の人材養成のための「東芝ウエスティングハウス・ゴールド・プログラム」、イノベーションを進めるにあたってのリーダーを養成する「イノベーション・リーダー・プログラム」、CEOの前でプレゼンテーションをする「グローバル・エグゼクティブ・フォーラム」などがある。

また「リベラルアーツ・トレーニング・アスペン・セミナー」は、リベラルアーツへの理解・造詣の深さがないとトップは務まらないとして、主にトップ候補を対象に実施している。

特に課題としているのは日本人の国際化で、日本人従業員にもっとグローバルな環境・メンタリティー・バリューを理解してもらうために重視しているのが、インテグリティー（誠実さ）とダイバーシティー（多様性）である。

青山学院大学のシンポジウム